



統計局統計調査部国勢統計課統計専門職
〔指導に関する業務〕

中本 琢実

NAKAMOTO TAKUMI

平成 19年10月 総務省採用

統計局統計調査部消費統計課物価統計室物価指数第二係

平成 22年 4月 統計局統計調査部調査企画課首席統計情報官付

平成 24年 7月 独立行政法人統計センター情報技術部情報処理課

(家計・物価担当)

平成 26年10月 独立行政法人統計センター製表部情報処理課

統計専門職(家計・物価担当)

平成 27年 4月 独立行政法人統計センター統計編成部

情報ソリューション課統計専門職(物価担当)

平成 27年 7月 統計局統計調査部消費統計課統計専門職

〔企画指導第一に関する業務〕

令和 元年11月 現職

日本の“今”を知り、“未来”を照らす

日本の礎を作る

「統計」と聞いて、みなさんは何を想像しますか？市町村別の人口、産業別の店舗や事業所の数、世帯の収入や消費支出、毎月の物価、男女別の就業者数など、思い浮かべるものは人それぞれだと思います。これら様々な統計を作ることが統計局の仕事であり、この中で現在私は、日本の人口や世帯の実態を明らかにする国の最も基本的な統計調査である国勢調査を担当しています。国勢調査は5年に一度実施されますが、令和2年はその実施年であり、開始から100年をむかえる節目にもあたります。国勢調査の結果は、少子高齢化や防災計画などの行政上の施策や、企業による店舗・工場の立地計画、全国の研究機関や大学で行う学術研究など幅広く利用されており、国の礎となっていると言っても過言ではありません。このような重要な調査を実施するために、47都道府県、約1,800市町村の地方公共団体の方々と緊密に連携し、意見交換などを行いながら、日々準備を進めています。様々な意見を踏まえ、柔軟な発想を形にして調査を実施していくことが重要であり、やりがいのあるところだと感じています。

国と地方が一体になる

統計は一人で作ることはできません。調査の企画、結果の公表、オンラインシステムの構築など様々な業務がある中で、全員が一つのチームとなって調査の準備を進めていく必要があります。さらに、実際に調査票の配布や回収を担っている都道府県や市町村の地方公共団体とも連携し、国と地方が一体となって統計を作りあげていきます。みんなで協力して一つのものを作りあげていくところが、統計業務の魅力だと感じています。また、調査の結果から地域の現状や特性がわかり、地方の良さを再発見することができます。これも統計業務に携わったからこそ気づけたことです。

公務員の仕事は事務的なものが多いですが、統計は数字を扱い論理的な考えが必要なことから、私のような技術系採用でも第一線で活躍することができます。事務系採用の人はもちろん、技術系採用の人もぜひ統計局で私と一緒に日本の未来を照らす統計を作ってみませんか。

Private
Time

週末は、近所のカフェで妻とモーニングを楽しんだり、気の合う仲間が集まってボードゲームをしたりして過ごしています。また、旅行が好きなので、まとまった時間があれば全国各地を回っています。47都道府県は制覇しているので、現在は、まだ行ったことのない市町村や島などを巡って、その土地の郷土料理や観光地を楽しんでいます。

Week Schedule

Monday

先週末までの進捗状況やメールなどを確認し、今週のスケジュールを立てます。

Tuesday

調査で使用する書類や用品について打合せを行い、様式や内容を決定していきます。

Wednesday

都道府県や市町村の地方公共団体からの照会に対して、電話やメールで回答します。

Thursday

地方で開催する会議に参加するため、進行スケジュールや説明資料の確認を行います。

Friday

会議に出席して資料の説明を行い、地方の方々と直接意見交換をします。

